

○平成二十六年 度

一 学 年 校 外 学 習

毛越寺目を閉じ心落ち着かせ自然の音に耳かたむける
禅組み百回息を数えだす静まり返る本堂の中
座禅では己の弱さうち消して静かな音に耳かたむける
毛越寺やさしい風にふかれつつ清めた心明日に備える
バス降りて歴史ある町巡りつつ行き先ごとにカメラ構えて
代表で「お願いします」言い終わり力が抜けて寝る座禅中
バスの中ノートにつづる思い出を友と一緒にながめ楽しむ
新緑や自然感じる平泉座禅体験自分見出す
毛越寺座布に座って深呼吸薄目を開けて心清める
変わらない昔の姿とどめてる八百歳の金鶏山よ
あわくかぐ新緑の中花開く丹色の柱にしえの風
毛越寺池に映った我が心座禅の後で研ぎ澄まされる
目を閉じて耳をすませば雨の音仏の前で禅杖響く
街並みを見下ろし風が吹いている青空ながめ英雄思う
毛越寺心を静め座禅をし足組みながら息を数える
座禅中まぶたをうすく開いたらそこは眩しく光る世界が
友達が叩かれるたび目が開いて姿勢を直し息を整え
毛越寺あぐらで印を結びつつ悟りを開く仏のごとく
美しい朱色のお堂毛越寺座禅体験心洗われ
目を閉じて聞こえてくるのは春の音心身共に身が引き締まる
足を組みかすかな光感じつつ息を数えて心を洗う
義経堂風の声聞く丘の上若き英雄はかなく終わる

二 学 年 野 外 活 動

水切りの我投げた石眺めつつせめても一つ跳ねてと祈る
古き世の町並み残る大内宿現代人の心がおどる
新緑の山々見れば思い出すそびえる城と館岩の父母
山々にかこまれ育つ子供たち田舎にこそこの学びありけり
晴天日この地はまるで水彩画ぬくもり感じる南会津か
大海にはばたく一羽の鶴のごと会津見つめる鶴ヶ城かな
せせらぎの音を耳に聞きながら見る一面の水芭蕉かな
見たせば名の知らぬ花咲き乱れ母に教わる新しい知恵
新緑の風と光を浴びながら皆とともに蜜柑ほおぼる

たぐさんの緑の山と川の音春空の下八重桜舞う

早朝の山菜求めて山歩きつまんだ蕨に顔がほころぶ
春さりて小枝に新芽初々し白壁まぶし城かまえ立つ
透き通る自然の中で植えていく土・汗・風のおいを知った
屏風岩山肌沿いに雫落ち雪解け水が会津を巡る
ばあちゃんの後が続いて丁寧に笑顔にさせるひまわりになれ
笑顔呼ぶはずむ会話と笑い声静かな村に明かりが灯る
山々に南会津は囲まれて果てなき緑が視界を埋める
ひまわりの畑に埋めるその時にみんなの汗が伝わるように

三学年修学旅行

ふと思うこの幸せは親や皆努力があつて生まれた証
灯り消し星なき空を眺めつつかすかな声で友の名を呼ぶ
旅先で大きく膨らむ未来地図道すじ光る将来の自分
十五歳大人になると決めただけ夢の国では幼き自分
未来都市チクタクチクタク時間過ぎ瞳を閉じる思い出深し
人力車街の喧騒消えていく走りぬけるよ風切りながら
慣れぬ土地迷い迷つてたどり着くひいたおみくじ大吉なのに
友の瞳に映る水魚のエメラルド墨田の街に海の楽園
雷門風に押されて通り抜け初夏の香りただよう下町
メトロ乗りもぐりもぐって地下五階モグラも行かぬ大江戸線よ
浅草寺晴れた青空映える赤みんな一緒に合格祈願
七色に光り輝く洞窟を走り抜けたら空へ飛び出せ
浅草寺流れる人混みかきわけて友の背中をただ追いかける
騒ぐ友けれども遊び楽しけれ夢国の余韻夜も眠れず
空の下過去の営み垣間見る時は巡りて蝶は夢を見る
君が今終わっちゃったと呟いた石ころ一つ蹴る帰り道
時を超え苦しみ背負う船乗りの思い受け継ぎ今この地へと
福竜丸言の葉なくとも語りかけ次は僕らが伝えてくべし

一学年合唱コンクール

いままでの練習のこと思い出す楽譜を開き音を奏でる
大空へ届けメロディ響かせて聞こえたものはみんなの思い
コンクール初の舞台に手が震えこわばりながらも歌を届ける
歌声で紡ぐ旋律高らかにみんなの思いをのせて響いた
会場に歌のリズムを刻んだら私は心に思い出刻む

今までの想いがよぎる舞台上はじける僕らこの一瞬に
大空に届く歌声四組の元気の良さが伝わってくる
秋空に届け僕らの歌声よ頂目指し勝利をつかめ
コンクールそのあとと言ったあたりがとうやつと気づけた大切なもの
書き込みが楽譜を埋めて抱く夢はばたかせるは努力の成果
歌声は大ホールへと吸い込まれ人の心をひきこんでゆく
思い込め響けこの歌いつまでも心に残そう友と一緒に
コンクール皆の歌声広がって扉突き抜け空へ羽ばたけ
どうどうと指揮台に立ち息をする右手上げれば集まる視線
奏で合う歌詞の言葉に意味こめておどりだす音あふれる思い
幾日も練習かさねいざ本番響き渡った八組の音
歌声をホールいっぱい響かせてみんなに届け夢の合唱
金の夢かなわなかった悔しさがいつのまにやら絆に変わる
合唱で努力の響き歌にのせみんなの声と私の思い
肩組んでみんなの思いはただひとつ獲りにいこうかゴールド金賞
舞台そで小声で緊張ほぐしあい高鳴る胸でいざ出陣
仲間との忘れられないあの瞬間一つになったカラフルな音

二学年合唱コンクール

グランプリとると信じて歌う日々歌と共に今よみがえる
練習を重ね重ねた入りだし一組色にホールが染まる
モノクロの楽譜色づき見上げればケヤキ並木も金の歌声
合唱を響かせつないだ絆とは永遠不滅切れることなし
舞台裏差し込む光に胸ドキドキ次々と皆ヒソヒソ
ありふれた個々の楽譜があるかぎり楽譜よ止まるな歌よ止まるな
ドクドクと心の音が響いてるみんなの声も響けばいいな
ばらばらの四組まとまり歌えたら何賞だつて大きな一歩
秋風にのせて歌えばシンクロしつかむ喜び深まる絆
手に入れた金の重みは努力分秋風もまた祝福してる
舞台袖友におされて踏み出したその足どりはよろけはしない
手があがりなり響く音重なり合い届けクラスの心の叫び
歌声が音符の願い伝えてくまぶしい笑顔詩にある思い
予感する音符とともにメロディーがきれいに咲いたグランプリ花
真っ白な紙にみんなで音を乗せ出来たものは我等の楽譜
熱い日が過ぎ去り涼し秋の朝あの歌声がふとよみがえる
果無くも落ち葉の如く夢が散る想い募りてまた次を待つ

ボロボロの楽譜にそつと伝えたいありがとうそしておつかれさまと

三学年合唱コンクール

澄んだ空金木犀が香る頃歩幅を合わせ歌う日々かな
合がっしょう咲で新たに見つけた絆かな自分われを信じて仲間ともを信じて
未来への不安や希望歌にのせ奏でる響き今旅立たん
大丈夫成功するよと声かけ合い輝く舞台へ一歩踏み出す
音消えて涙がひとつありがとうこの言葉だけ今は心に
秋空にまぶしい光胸はれるもう最後かと寂しさ感じて
果てしなく広がる空に虹をかけ想い重なり世界に響く
賞を手思い出すのは辛い日々それらはすべて金に輝く
黒板の期待の言葉前にして思いこみあげ静まる教室
ぼろぼろの楽譜めくればあふれ出す流した涙努力の軌跡
こみあげる多くの思い声にのせ天地震わす千の歌声
時は来た静寂切りさき今歌え我らの希望大地の鼓動
がんばれを自分の心に言う日々を私は決して忘れはしない
刻々と高まる鼓動迫る時そんな自分に届けるファイト
音の舞うひんやり響く教室に指先で描く僕たちの夢
変わりなき確かな思い胸に秘め未知の舞台へ今歩み出す
本当に届きたいものは何だろう証の歌詞へ自分重ねて
君がいる音符に込めたこの想いラストメモディー遙かな空へ